

HHP アプリ: HHP2 形

取扱説明書

アプリ Ver.

iOS : 2.0.0 以上

Android : 2.0.2 以上



お客様へ

- ・このたびは、モバイルアプリをダウンロードいただきまして、誠にありがとうございました。
- ・使用される方および管理される方は、必ずお読みください。
- ・本製品は Bluetooth 対応のロードセル用アプリです。お使いのロードセルが Bluetooth 対応であることをあらかじめ確認し、使用する際は各種取扱説明書を参照してください。
- ・App Store は Apple Inc. のサービスマークです。iOS は Apple の登録商標です。
- ・Android および Google play ロゴは、Google LLC. の登録商標です。
- ・Bluetooth および Bluetooth ロゴは、Bluetooth SIG, Inc. の登録商標です。

目次

1. はじめに	2
2. 使用開始	3
3. モニタリング・インターフェイス	4
4. ユーザー設定	5
5. レポートの作成	11
6. つり上げ閾値の詳細設定	13
7. 校正時期	15
8. 再接続	16

この取扱説明書は、製造元であるクロスビー・ストレートポイント社が発行した英語版取扱説明書を、弊社キトーが日本語に翻訳したものです。
この取扱説明書は事前の予告なく、一部内容を変更することがあります。

1. はじめに

- 本製品は、最大 4 台のクロスビー・ストレートポイント社製 Bluetooth 対応のロードセルを、最大 8 台のスマートフォンで HHP アプリを使用して接続・監視することが可能です。これにより、複数のリフティング担当者がそれぞれ異なる視点から荷重の進行状況や安全性を監視し、潜在的な危険や問題を特定できます。
- この取扱説明書の内容で、ご不明な点がございましたら最寄りのキトーまでお問い合わせください。
- お客様が末永く、本製品を安全にご愛用いただけますよう、キトーは心より願っております。

2. 使用開始

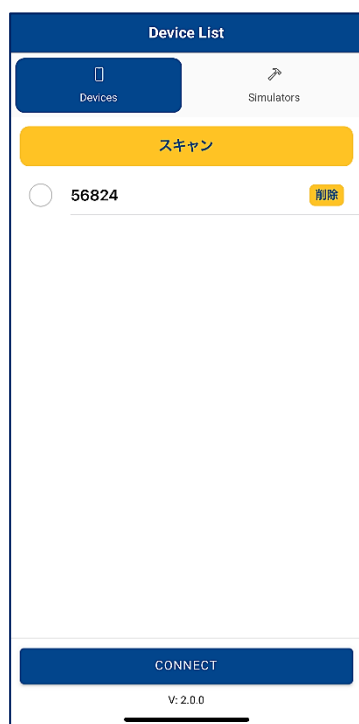


図 1



動作環境

- ・OS との互換性はアプリストアの情報を確認してください。
- ・対象外のバージョンについては動作保証外となります。
- ・対応 OS や推奨環境は、アップデートにより予告なく変更される場合があります。

1. アプリストアからアプリをダウンロードしてインストールします。
(二次元コードをスキャンすると、アプリのダウンロードページにリンクします)
2. アプリを起動する前に、お使いのデバイスの Bluetooth 機能をオンにします。
(Bluetooth 機能を有効にする前にアプリを起動すると、同機能を有効にするよう促されます)
3. 自分の位置が、有効化した SP Bluetooth ロードセルから 100m/328ft 以内になるようにします。
4. アプリが完全に起動したら、「スキャン」ボタンを押して、周囲 100m 以内で利用可能な SP Bluetooth デバイスを検索します。
5. Bluetooth 機能がまだオンになっていない場合は、オンにするよう促されます。
6. デバイスが検知されると、リストに追加されます(図 1)。
7. 接続して監視情報を取得したいデバイスに対して「接続 (Connect)」を選択します。

3. モニタリング・インターフェイス



ロードセルと接続すると、モニタリング・インターフェイス（図2）の画面に移動します。

- ① ゼロリセット - 力の総計の監視または選択したゼロ点からの監視を行います。
- ② 単位選択 - 可能な選択肢 : T/lb/kN/kg
- ③ ピークホールド - 最大の測定値のみを表示して、次に最大値が測定されるまで維持します。
- ④ データログ - 測定値のレポートの作成とエクスポートを行います。
- ⑤ ステータスバー - (電池、選択したデータログの種類)
- ⑥ ドロップダウン・ユーザーメニュー
- ⑦ シフト開始 (START SHIFT) - 閾値が設定されている場合に、つり上げ回数などの計数を開始します。
- ⑧ 合計 (Total) - 接続されている全ロードセルの合計

4. ユーザー設定



図 3

「ユーザーメニュー」アイコン①を選択して、メニューオプションを表示します（図 3）。次に「ユーザー設定」②のオプションを選択します。

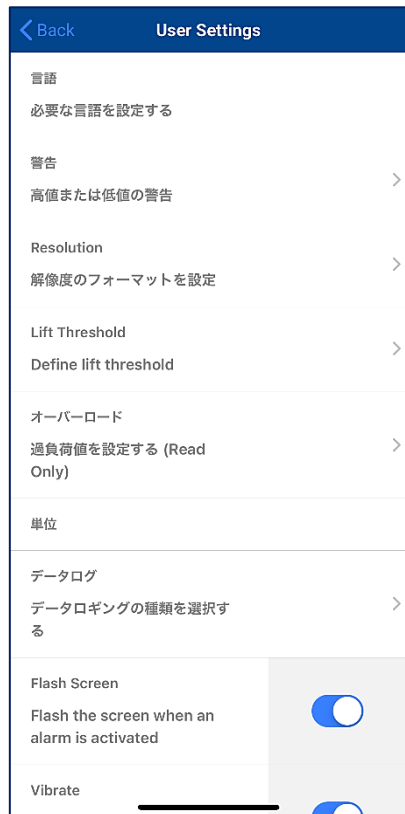


図 4

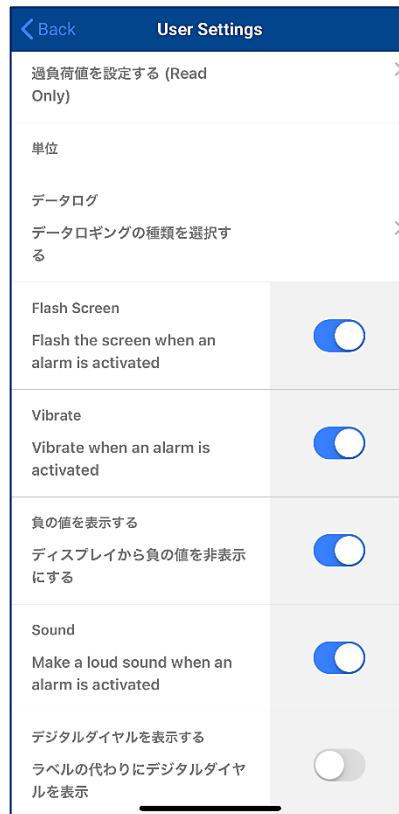


図 5

以下のオプションがあります(図 4 および図 5)。

- 言語 - 必要な言語を設定します。
(選択肢は 8 言語：英語、スペイン語、フランス語、中国語（簡体字）、日本語、オランダ語、ノルウェー語、ドイツ語)
- 警告（アラーム） - 接続された各ロードセルの高値および低値について警告します。オプションで警告（アラーム）が鳴るよう設定します。
- 解像度（Resolution） - 荷重測定値の解像度のフォーマットを設定します。
- つり上げ閾値（Lift threshold） - 閾値を設定します。ロードセルの測定値がこの値を上回り 3 秒間を超えた後にこの閾値を下回った時点で 1 回のつり上げ回数として計数されます。
- オーバーロード - 最大の荷重値と過負荷状態になった時間の長さを示す、読み取り専用のカウンターです。
- 単位 - デフォルト単位を設定するか、カスタム単位を設定します。
- データログ - データロギングの種類を選択します。
- 画面の点滅（Flash screen） - このオプションを ON にすると、警告（アラーム）の起動時に画面が点滅します。
- 振動（Vibrate） - このオプションを ON にすると、警告（アラーム）の起動時にデバイスが振動します。
- 負の値を表示する - このオプションを ON にすると、ゼロを下回る値を表示します。
- 音（Sound） - 警告（アラーム）の起動時に音を鳴らします。
- デジタルダイヤルを表示する - ラベルの代わりにデジタルダイヤルを表示します。

Languages
English
Germany - German
Japan - Japanese
Netherlands - Dutch
Norway - Norwegian
Spain - Spanish
China - Chinese
France - French

図 6

言語設定 (図 6)

- 英国 (United Kingdom) - 英語 (English)
- スペイン (Spain) - スペイン語 (Spanish)
- フランス (France) - フランス語 (French)
- 中国 (China) - 中国語 (Chinese)
- 日本 (Japan) - 日本語 (Japanese)
- オランダ (Netherlands) - オランダ語 (Dutch)
- ノルウェー (Norway) - ノルウェー語 (Norwegian)
- ドイツ (Germany) - ドイツ語 (German)

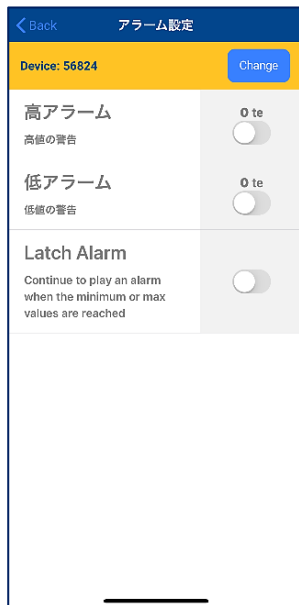


図 7



図 8



図 9

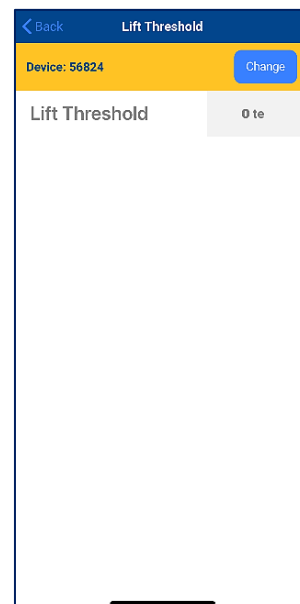


図 10

アラーム設定 (図 7)

- 高アラーム：いつアラームを鳴らすかについて基準となる値を設定します。デフォルトは0te です。
- 低アラーム：いつアラームを鳴らすかについて基準となる値を設定します。デフォルトは0te です。

解像度 (Resolution) 設定 (図 8 および図 9)

- 解像度 (Resolution) - 解像度の種類 (ユーザー定義またはデフォルト) を設定します。
- ユーザー定義 (図 8) - 解像度を小数点以下の数字で定義します。
- デフォルト (図 9) - アプリで定義されている解像度 (校正中に設定された解像度) です。

つり上げ閾値 (Lift threshold) (図 10)

閾値を設定します。ロードセルの測定値がこの値を上回り 3 秒間を超えた後にこの閾値を下回った時点で 1 回のつり上げ回数として計数されます。

選択したロードセルを変更することで、接続されている全ロードセルに対してこの閾値を設定することができます。

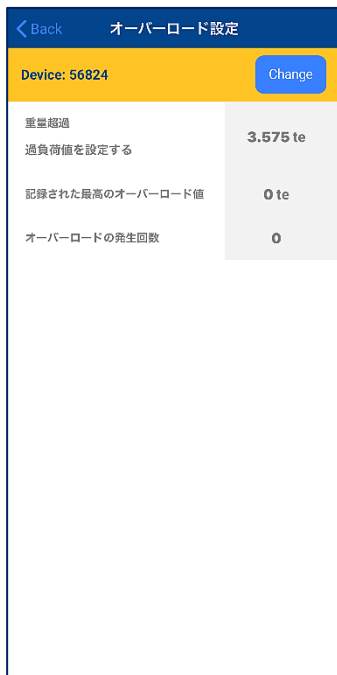


図 11



図 12

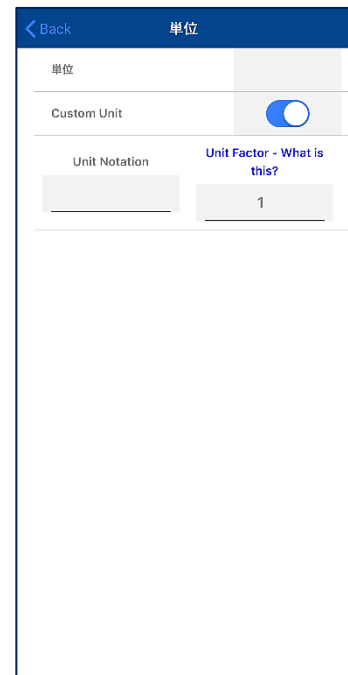


図 13

オーバーロード設定 (図 11)

選択したロードセルに設定された過負荷値を確認するための読み取り専用のセクションです。記録されたオーバーロード最大値と併せて発生回数の履歴が表示されます。

デフォルト単位設定 (Default Unit Settings) (図 12 および図 13)

- 単位：デフォルトにする単位を選択します。
- カスタム単位 (Custom Unit)：これを選択して、ユーザー定義のカスタム単位を有効にすると、カスタム単位表記に入力して、1 トンに対する量の係数を決めることができます。

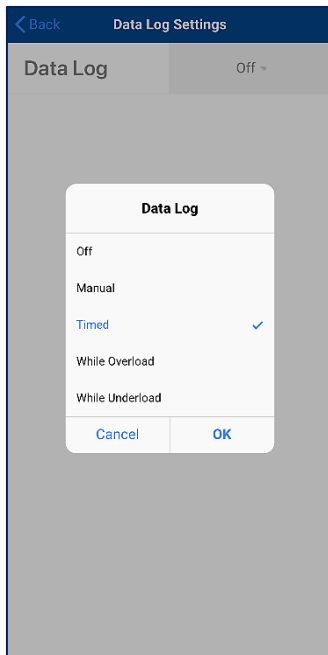


図 14

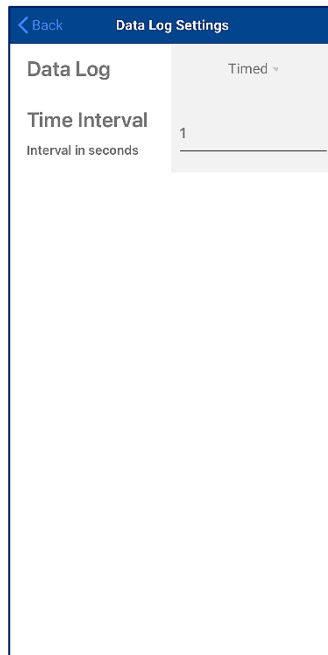


図 15

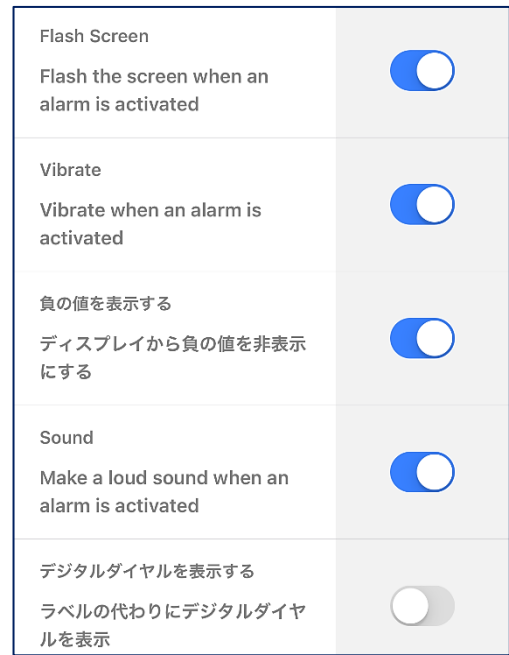


図 16

データログ設定 (Data Log Settings) (図 14)

- データログ (Data Log) - データロギングの種類を以下から選択します。
 - Off - データロギングをオフにします。
 - 手動 (Manual) - ユーザーがログを記録する内容を選択します。
 - 時間設定 (Timed) (図 15) - アプリがユーザー定義の間隔(時間の増加量は秒で表示)で測定の間隔を記録します。
 - オーバーロード時 (While overload) - 過負荷状態のときにログを記録します。
 - アンダーロード時 (While underload) - 低負荷状態のときにログを記録します。
- 時間間隔 (Time interval) - 時間設定をしたデータログの場合のみ、時間間隔を設定します。

その他の設定 (図 16)

- 画面の点滅 (Flash screen) - このオプションを ON にして、警告時に画面が点滅します。
- 振動 (Vibrate) - このオプションを ON にして、警告時にデバイスが振動します。
- 負の値を表示する - このオプションを ON にして、ゼロを下回る値を表示します。
- 音 (Sound) - 警告時に音を鳴らします。
- デジタルダイヤルを表示する - ラベルの代わりにデジタルダイヤルを表示します。

5. レポートの作成



図 17

Project Details
荷重試験
Job Id
荷重試験
Latitude Longitude
Cancel Start

図 18

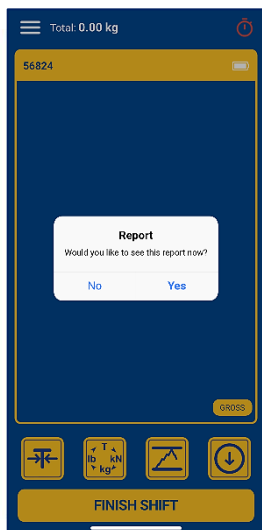


図 19

Lifts
Project Details: 荷重試験
Job Id: 荷重試験
Log Date: 05/09/2025 10:53:04
No of Lifts: 5
Sum of Weights: 28.01 kg

図 20

Lifts
Project Details: 荷重試験
Job Id: 荷重試験
Total Devices: 1
Date: 05/09/2025 10:53:04
Overload Count: 0
GPS: .
EXPORT

Date	Time	Job Id	Weight
05-09-2025	10:50:54.93	56824	0.00 kg
05-09-2025	10:50:55.97	56824	0.00 kg
05-09-2025	10:50:56.97	56824	0.00 kg
05-09-2025	10:50:57.97	56824	0.00 kg
05-09-2025	10:50:58.93	56824	0.00 kg
05-09-2025	10:50:59.95	56824	0.00 kg
05-09-2025	10:51:00.97	56824	0.00 kg
05-09-2025	10:51:01.99	56824	0.00 kg
05-09-2025	10:51:03.01	56824	0.00 kg
05-09-2025	10:51:04.03	56824	0.00 kg
05-09-2025	10:51:05.05	56824	0.00 kg
05-09-2025	10:51:06.07	56824	0.00 kg
05-09-2025	10:51:07.09	56824	0.00 kg

図 21

レポートを作成するには、以下の手順に従ってください。

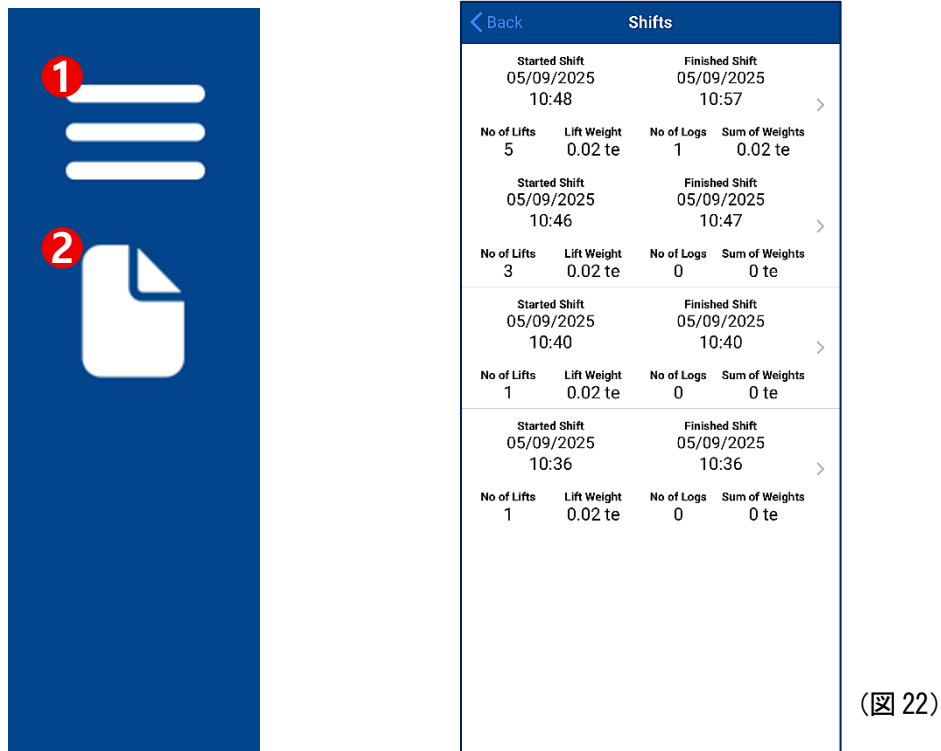
ユーザー設定 > データログに進み、必要なデータログの種類を選択します。

1. まず、ホーム画面のシフト開始 (Start the Shift) に進み、「データログ」ボタンを押します。(図 17)
2. 「プロジェクトの詳細 (Project Details)」欄にプロジェクト名を入力します。(図 18)
3. 「ジョブ ID (Job Id)」欄にジョブの参照名/参照番号を入力してから「OK」を押して保存します。
4. 測定レポートの場所を (緯度と経度の GPS 座標を使用して) 設定するには、手動で入力するか、あるいは、マーカーのアイコンを選択して、(お使いのモバイルデバイスの GPS 機能を使用して) 自分の位置を自動入力します。その後、「開始 (START)」を押します。
5. 「手動」での測定レポート作成に設定した場合 (P. 10「ユーザー設定 - データログ」を参照) は、「記録 (Record)」を押して、画面に表示された測定値を即座に取得する必要があります。「停止 (Stop)」を押すと、レポート作成を中止します。
6. 「時間設定した間隔 (Timed Interval)」での測定レポート作成に設定した場合 (P. 10「ユーザー設定 - データログ」を参照) は、プロジェクトの詳細を入力して「開始 (START)」を押すとすぐにデータログが開始します。完了したら「停止 (Stop)」ボタンを選択します。
7. オーバーロード時 (While overload) またはアンダーロード時 (While underload) のいずれかに設定した場合 (「ユーザー設定 - データログ」の 10 ページを参照) は、「プロジェクトの詳細 (Project Details)」と「ジョブ ID (Job ID)」にデータを入力したらすぐに「開始 (START)」を押します。負荷のパラメータを上回る、または下回る測定値が自動的に記録されます。ログの記録を中止するには「停止 (Stop)」を押します。
8. 測定値のログ記録を中止した場合、レポートを表示するかどうか求められます。(図 19) 「はい (Yes)」を選択すると「レポート」のセクションに移動します。(図 20)
9. レポートを Excel スプレッドシートとして E メールで送信するには、まず正しいプロジェクト/ジョブ ID を選択してから、「エクスポート (EXPORT)」を選択します。(この作業を正常に完了するためには、WiFi/インターネットとデフォルトの E メールアプリが必要です) (図 21)

10. お使いのモバイルデバイスにレポートを Excel スプレッドシートとして保存し表示するには、「エクスポート (EXPORT)」を選択します (レポートの表示には、スプレッドシート表示アプリがインストールされている必要があります)。

シフト中の重量計測がすべて完了したら、そのシフトを終了します。

注意: シフトを開始したら、単位を変更することはできません。データログを開始すると、ゼロリセット (Tare) ボタンと単位 (Unit) ボタンが無効になります。



(図 22)

記録されている全レポートを表示するには、「ユーザーメニュー」アイコンを選択してメニューオプション①を表示します。

次に「レポート」オプション②を選択します。

図 22 に示されるように、保存されたシフトに従ってレポートが一覧表示されます。

必要なレポートを選択して、表示・送信・エクスポートを行います (図 20 および図 21)。

6. つり上げ閾値の詳細設定

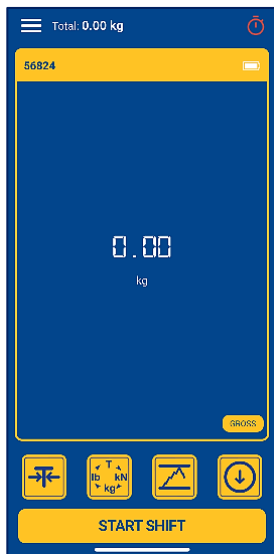


図 23



図 24

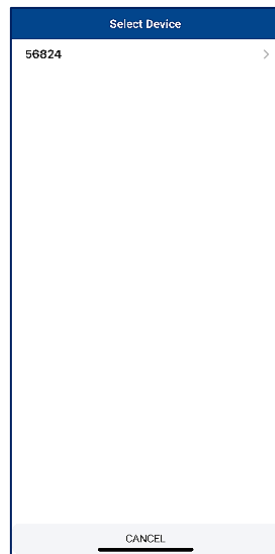


図 25

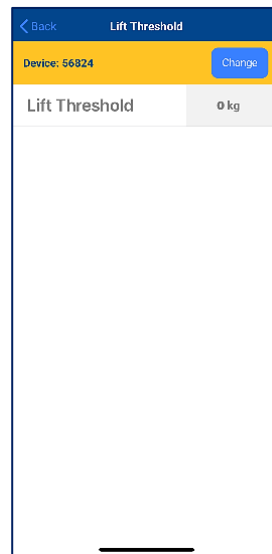


図 26

シフト開始前の表示 (図 23)

閾値の設定 : ユーザー設定 > つり上げ閾値 (Lift Threshold)。(図 24)

デバイスを選択します。(図 25)

閾値を設定します。(図 26)

ロードセルの測定値がこの値を上回り 3 秒間を超えた後にこの閾値を下回った時点で 1 回のつり上げ回数として計数されます。

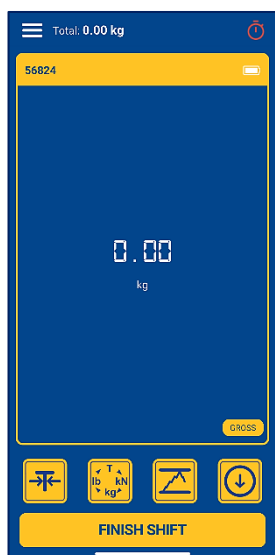


図 27



図 28

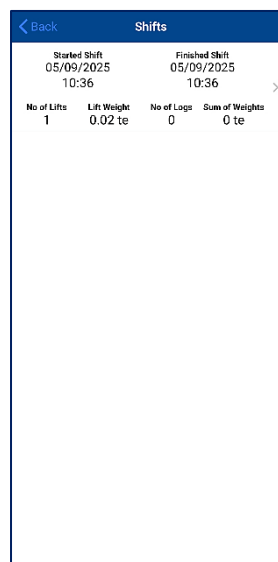


図 29

Shifts			
Started Shift 05/09/2025 10:48		Finished Shift 05/09/2025 10:57	
No of Lifts 5	Lift Weight 0.02 te	No of Logs 1	Sum of Weights 0.02 te
Started Shift 05/09/2025 10:46		Finished Shift 05/09/2025 10:47	
No of Lifts 3	Lift Weight 0.02 te	No of Logs 0	Sum of Weights 0 te
Started Shift 05/09/2025 10:40		Finished Shift 05/09/2025 10:40	
No of Lifts 1	Lift Weight 0.02 te	No of Logs 0	Sum of Weights 0 te
Started Shift 05/09/2025 10:36		Finished Shift 05/09/2025 10:36	
No of Lifts 1	Lift Weight 0.02 te	No of Logs 0	Sum of Weights 0 te

図 30

Lifts	
Project Details: 荷重試験	
Job Id: 荷重試験	
Log Date: 05/09/2025 10:53:04	
No of Lifts: 5	
Sum of Weights: 28.01 kg	

図 31

ここで「シフト開始 (START SHIFT)」ボタンが「シフト終了 (FINISH SHIFT)」に変わります。(図 27) 閾値を上回ったデバイスがない場合は、レポートのセクションが図 28 のようになります。

閾値を上回ったデバイスがある場合は、つり上げ回数として計数されて、レポートのセクションが図 29 のように更新されます。

つり上げ回数 (Number of lifts) = 接続されているいずれかのデバイスが、設定された閾値を超えてから閾値未満に戻った回数です。

測定値が閾値未満まで戻っていない場合は、つり上げ回数として計数されません。

つり上げ重量 (Lift weight) = 閾値を上回ったデバイスのピーク値の合計

例えば、4 台のデバイスのつり上げ閾値を、以下のように設定します。

D1 = 1te D2 = 2te

D3 = 1.5te D4 = 2.5te

測定値は以下ようになります。

セット 1: D1 = 0.5te、D2 = 2.5te、D3 = 1.6te、D4 = 2.6te [つり上げ回数 = 3、つり上げ重量 = 6.7te]

セット 2: D1 = 1.2te、D2 = 1.8te、D3 = 1.8te、D4 = 2.54te [更新されたつり上げ回数 = 6、更新されたつり上げ重量 = 8.1te]

[1.2 + 2.5 + 1.8 + 2.6 = 8.1]

データログオプションがオンになっている場合は、レポートに合計ログ数と重量の総計が表示されます。(図 30)

ログ数 (Number of logs) = このシフト中で利用可能なログデータのセット数を示します。

重量の総計 (Sum of weights) = 全てのログの重量を合わせた合計値を示します。

「シフト (Shift)」が選択されているときは、ログに記録されたデータの詳細が表示されます。

重量の総計は、ログ内で閾値を上回ったピーク値の総計を示します。

つり上げ回数は、ログ内で閾値を上回った回数を示します。

7. 校正時期

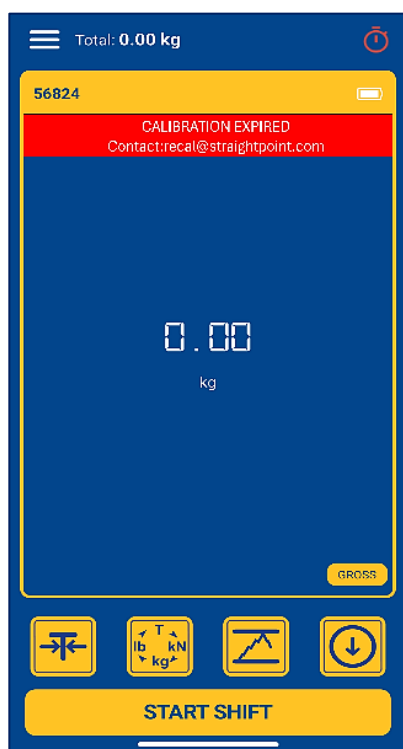


図 32



図 33

ロードセルの再校正が必要な場合は、ロードセルを接続した直後に HHP アプリのホーム画面に上図の画面が表示されます。(図 32)

注意アイコンは、デバイスが少なくとも 1 回は過負荷状態になったことを示しています。(図 33)

過負荷値は出荷時に工場設定されています。

8. 再接続

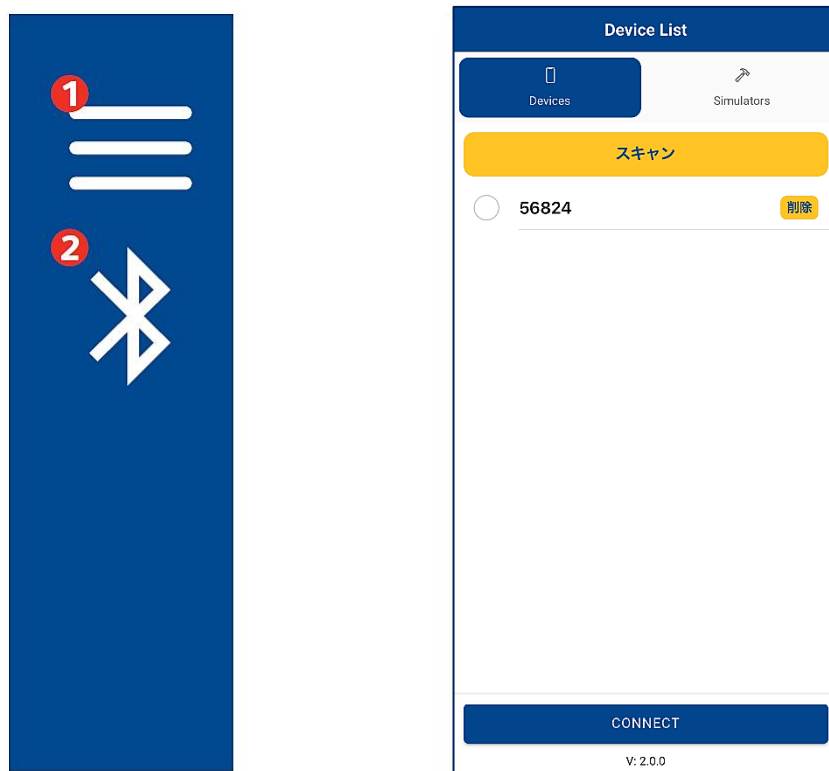


図 34

接続したロードセルの接続を解除して、スキャンリストから新たに Bluetooth デバイスに接続するには、「ユーザーメニュー」アイコンを選択してメニューオプション①を表示します。

次に「接続解除」アイコン (Bluetooth のアイコン) ②を選択します。

通信範囲内に新たなデバイスがあれば、そのデバイスが図 34 に示されるように一覧表示されます。

必要なデバイスを選択し、「接続 (Connect) 」を選択することで新しい接続を確立します。

注意：「メーカー設定」に接続する権限は、アプリケーションのメーカーであるクロスビー・ストレートポイント社にあります。

お問い合わせ先

■カスタマーセンター／Customer Center of Japan

東部カスタマーセンター	Tokyo	《TEL》0120-994-404	《FAX》0120-994-504
西部カスタマーセンター	Osaka	《TEL》0120-959-488	《FAX》0120-959-499
西部カスタマーセンター	Nagoya	《TEL》0120-929-965	《FAX》0120-929-966

■お客様相談センター／Customer Service Center

受付時間 9:00～16:00（土・日祝日を除く）

《TEL》0120-988-558

《FAX》0120-988-228

Website: kito.co.jp/contact/

■本社／Head Office

本社工場 Head Office & Factory

〒409-3853 山梨県中巨摩郡昭和町築地新居 2000

東京本社 Tokyo Head Office

〒163-0809 東京都新宿区西新宿 2-4-1 新宿 NS ビル 9 階

無断転載・複写禁止

本書は、事前の予告なく一部内容を変更することがあります。

本書または、製品に関するお問い合わせは、弊社もしくは販売店までご連絡ください。

本製品は日本国内での使用を前提として設計・販売されております。本製品を日本国外で使用する場合は、製品仕様が使用国の法令、規格へ適合していない可能性がありますので、事前に弊社までご相談ください。

また、本製品の日本国外での修理や部品販売などのアフターサービスには対応いたしかねますので、あらかじめご了承ください。



Website: kito.co.jp